

研究室 A125  
 担当授業  
 心理学B (1)  
 行動の科学 (1)  
 脳と行動の科学 (2)  
 行動科学統計演習 (3)  
 情報処理心理学 (4)  
 行動科学実習 (4)  
 ※ ( ) 内はセメスター  
 オフィスアワー  
 火曜日 13:00~15:00



行動科学プログラム  
 入戸野のひろし  
 宏  
 研究室

## これが聞きたい！一問一答

### ◎趣味

子供と遊ぶこと、研究

### ◎自慢の品

自分が書いた論文

### ◎好きな食べ物

カレー (辛いもの)

### ◎好きな有名人

ヴィクトール・フランクル

『夜と霧』の著者です。』

### ◎好きな音楽

ジャズ

### ◎好きな本

ポール・オースターの小説

### ◎好きな言葉

好奇心

### ◎広大の中で好きな場所

自分の研究室

「やっぱり、ここが一番落ち着くね (笑)。」

### ◎総合科学部で特徴的だと思う点

壁を作らないという理念をみんなが共有しているところ

## 大学は「夢」を語るどころだと思っています。

### 研究内容

色々なことをやっているのですが、専門は心理学です。心理学というと、人と人の関係を調べているというイメージが強いのですが、僕は人とモノの関係について調べています。人間が作ったモノ、例えば、コンピュータやテレビ、映画などのことですが、そういうものに対して人がどのように関わり、どのように影響を受けているかを調べています。特に、脳の働きを脳波という形で記録して、モノを使っているときに脳はどういう反応をしているかを研究してきました。面白いものを見つけて夢中になっていたりときの脳の反応を調べることで、使っているときのモノの発明や開発につながる面白いなと思っています。

また、広告などのデザインで、人が見て好感を持つデザインとそうでないデザインを、脳の反応から区別できるような仕組みが作れたら面白いと思いますね。見た瞬間に脳が何をしているかに関心があり、いろいろ調べてきました。何かをパッと見て、じっと見つづける場合と、つまらないと思って次に行ってしまう場合では、脳の反応の仕方が違うんです。脳は見るべき価値があるかそうでないかを〇・二秒くらいで判断して、ずっと見つづけるか、それともやめてしまうかを決めているらしいということが、うちの研究室で行った実験から明らかになってきました。

# 研究室紹介

## 研究への道のり

本当は、大学に入った頃は哲学者になろうと思っていました。だけど、哲学についての本を色々読んでいくうちに、これはかなわないと思ったんですね(笑)。歴史上、多くの哲学者が存在し、日本語に翻訳された本もたくさんで、これを全部読むのほども無理だと……。昔の人の考えを理解するだけでも精一杯だから、自分で何か新しいアイデアを出すまではいかないと思います。

そこで、自分でデータを集めることで、少しでもいいから人間に関する新しい知識を付け加えられそうな分野として、心理学を始めました。さらに、哲学からの反動ということで、特に即物的な脳に関する研究を選びました。これまでに何度もやめようと思いましたが、それなりに面白いので続けています。でも、脳の研究だけで終わる気持ちはないです。「人間とは何か」という哲学的な問いが僕の研究の根幹にはあります。

## 研究の中の「総合科学」

いわゆる「正統派」の心理学はあまりやっていません。専門家は興味を持たないけれど、一般の人が興味を持つようなテーマを専門技術を使って攻めていこうというのが僕のスタンスです。「面白くてナンボ」だと思っているので、まずは自分で面白い

と思えるか、そして人にその面白さを伝えられるかが決め手なんです。役に立つとか儲かるとかいう基準ではなく、人が素朴に面白いと感じてくれるような研究を目指しています。大学というのは「夢」を語る場所なので、実社会の損得勘定ではできないような研究をあえておこない、どれだけ人を知的に喜ばせられるかが使命だと信じています。ただし、面白いことと興味本意とは違う。お笑いと同じで、いいかげんにはなく、プロとして真剣に取り組んでこそ面白さが際立つと思います。

## ヒューマン

さっき話したように、僕は人とモノとの関係を扱っているんですが、世の中にはいろいろな無駄なモノがありますよね。例えば、電化製品に、なくてもいい機能がついていると、その分、電気を余分に消費してしまう。企業の都合で付けられた本当は要らない機能を減らしていけたらと思えます。シンプルなモノの方が使いやすからです。複雑なモノを使いこなせずにはライラするの、精神的にもエコではないですね。シンプルなモノの方がうまくいくということを実証していくのが私の一つのテーマです。エコロジーを考えながら研究しているわけはありません。しかし、人とモノの関係を研究していくなかで、ゆくゆくは人間にとって優しいことと地球にとって

優しいことが調和する生活の仕方を見つけることが出来たらいいなと思っています。それが僕なりのエコに対する取り組みですね。

## 学生に一言

自分が面白いと思うテーマを見つけること、あとは人と違うことをやることですね。それが一番です。人と同じことをやっても、つまらないと思うんですよ。同じことをやっていたら、自分よりもすごい人に必ずどこかで会おうはずですし。もちろん、協調しないといけない部分もあるでしょう。だけど、やっぱり自分のオリジナリティを出していつて、自分はこう思うとはっきり言えるようになってほしいです。そのためには口だけでなく、実力も高めていかないと格好悪いので、それが学びの原動力になります。

今の学生には自分のやりたいことが分からないという人が結構いますね。だけど、何でもいから自分が興味を持ったことを突きつめていけば、その分だけそのテーマに詳しくなっていく。いい意味でのオタクになって、そこから自分の専門性やオリジナリティを作っていけたら、自信もつくのではないかなと思います。

【担当】 20生 世良 真一郎